

日本機能水学会について

今世紀においては、地球規模での生産活動・消費活動等に伴い地球環境・生活環境の激変が予想されている。そうした中で健康・衛生・環境の増進・改善は重要なテーマであり、そのために人や動植物、環境にやさしく効果的な新しい資材や技術の開発・導入が望まれることは疑いがない。低濃度で効果を発揮し、生き物にも環境にもやさしいことが実証されつつある機能水(主として電解水)は、様々な分野において多様かつ多大な貢献をする(潜在)能力をもっており、その有効利用のためには科学的・技術的および社会的基盤の充実が機能水関係者はもとより時代の要請となっていると確信する。

電解水の科学的・技術的および社会的基盤は、これまで分野ごとの任意の研究会や企業協議会のセミナー等の活動、および多分野が集合した機能水シンポジウム(機能水研究振興財団主催)などを通じて充実し、いろいろな機能に関する科学的根拠が蓄積してきた。この状況を踏まえて、第8回(2001年12月)機能水シンポジウムにおいて吉川敏一大会長(京都府立医科大学教授)が、各研究会等のリーダーとの会合での議論を踏まえて、科学的根拠に基づく機能水研究の展開を推進するために学会の設立を提案し、シンポジウム関係委員・出席者揃っての賛同を得ることができた。

2018年、日本学術会議協力学術研究団体に登録されたことを機に、同会議憲章や科学者の行動規範を踏まえて活動している。

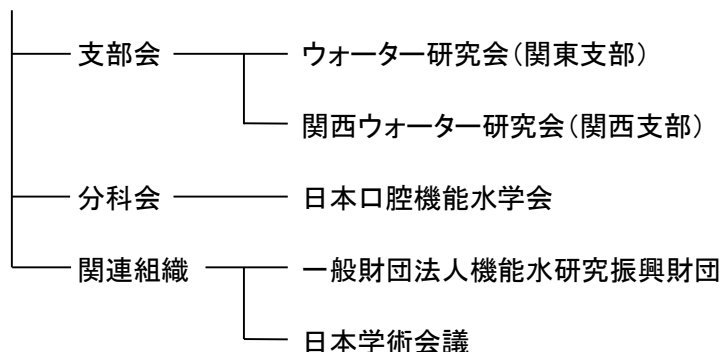
(1) 目的

「人為的な処理によって再現性のある有用な機能を獲得した水溶液の中で、処理と機能に関して科学的根拠が明らかにされたもの」を機能水といい、各種の機能水の機能、製造の科学・技術・社会学に関する基礎的応用的研究および発表・討論を展開し、その学術的成果を公表する。

- * 科学的根拠に基づいた正しい知識および使用法の集積と普及を目指す。
- * 科学的知識や用語等に関する統一性の徹底をはかる。 → ガイドラインの整備
- * 世界をリードすべく努力する。

(2) 組織

日本機能水学会(本部): 理事会・事務局・各種委員会



(3) 活 動

機能水に関する正しい知識を獲得・蓄積・普及するための学術的ナショナルセンターとして機能することは勿論、この分野を世界的にリードする役割を担うことを目指す。

学会は、年1回の学術大会と総会を主宰するが、セミナー等の活動は支部会による企画を尊重し、実施する。但し、学会事務局を通じて他の支部会活動も十分考慮し、異なる企画が短期間の間に別個に企画・実施されることのないよう調整を図る。なお、セミナー等の企画の実施の際には日本機能水学会の活動の一環であることを明示する。

定例活動：年次学術大会(毎年10月～12月)

総会(毎年6月)

セミナー・シンポジウム 年4回

学術誌「機能水研究」年1～2回発行